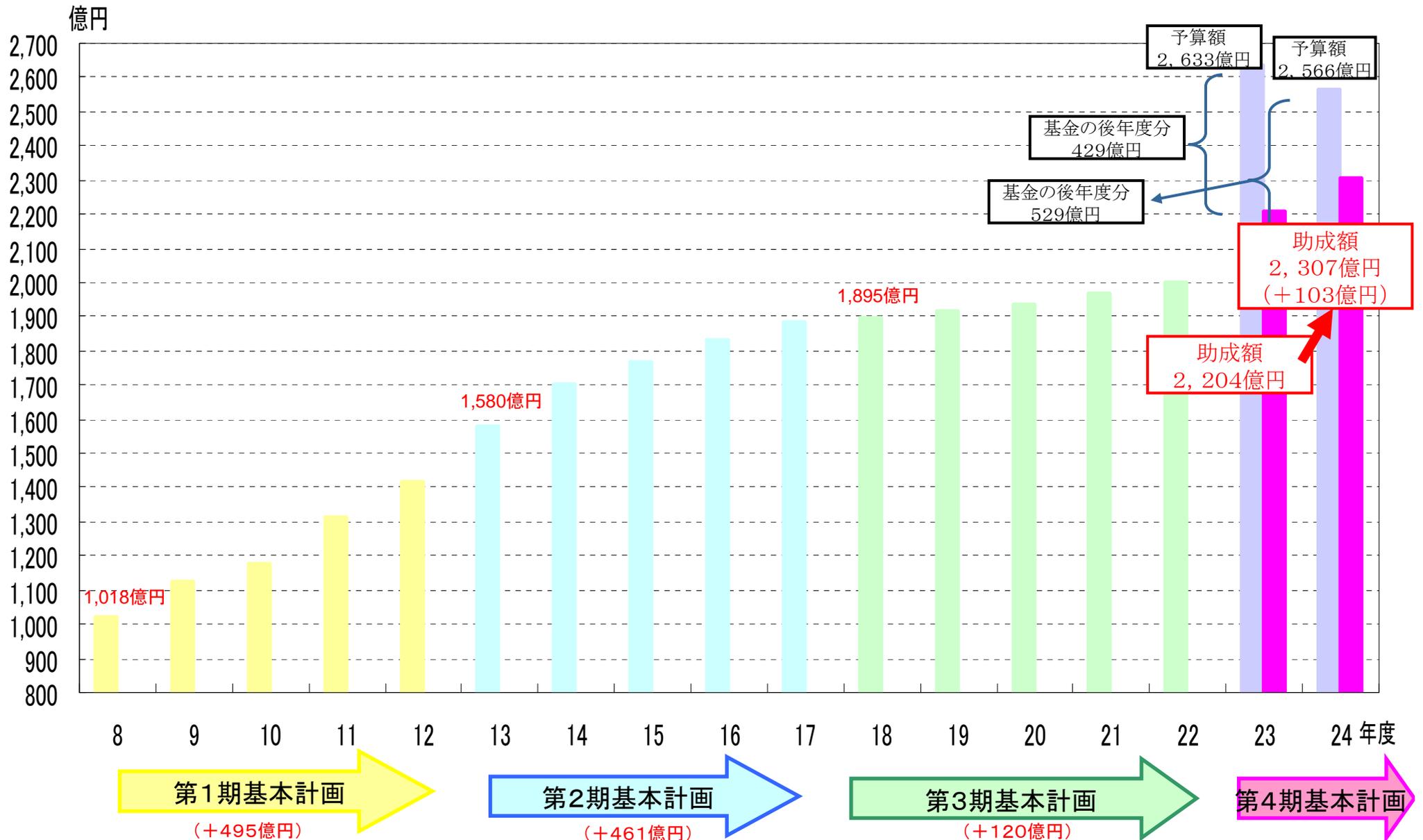


科学研究費助成事業—科研費—を めぐる最近の状況等について

【主な説明内容】

1. 科研費の予算額の推移
2. 科研費の直接経費・間接経費の推移
3. 間接経費の導入状況
4. 応募件数の推移(基盤研究、若手研究、挑戦的萌芽研究)
5. 科研費の基金化について
6. 複数の科研費の合算による共用設備の購入について
7. 科学技術・学術審議会研究費部会「科学研究費助成事業(科研費)の在り方について(審議のまとめ その2)」
8. 謝辞(Acknowledgment)の記載について
9. 科研費ロゴタイプについて

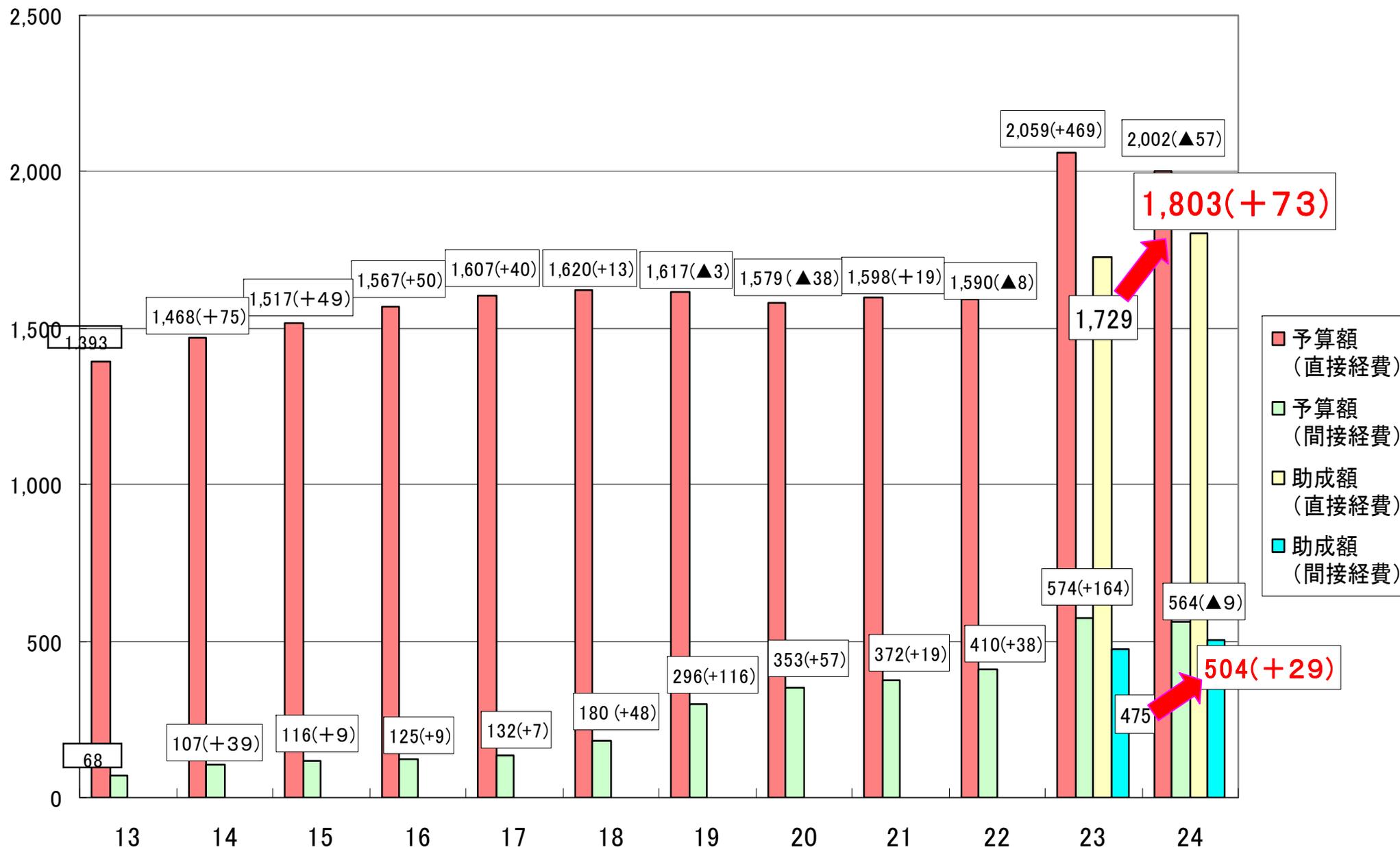
科研費の予算額の推移



※ 予算額は、当初予算額を計上

※平成23年度から一部種目について基金化を導入したことにより、予算額には、翌年度以降に使用する研究費が含まれることとなったため、予算額が当該年度の助成額を表さなくなりました、そのため、当該年度に助成する金額を「助成額」として、予算額とは別に表記しています。

科研費の直接経費・間接経費の推移(H13~H24)



間接経費の導入状況

間接経費とは

- 科研費などの競争的資金を獲得した研究者の研究開発環境の改善や研究機関全体の機能向上に活用するため、研究機関に交付される経費。
- 研究機関の長の裁量により執行可能。

☆ 研究環境の整備のために必要な経費

(例示)

- 研究費の機関管理に必要な専門の事務スタッフの配置費用
- 研究棟などの施設整備のための費用(大型計算機棟、図書館、学内共通設備の整備・維持・管理費用)
- その他(特許関連経費、雑役務費、通信運搬費、光熱水費)

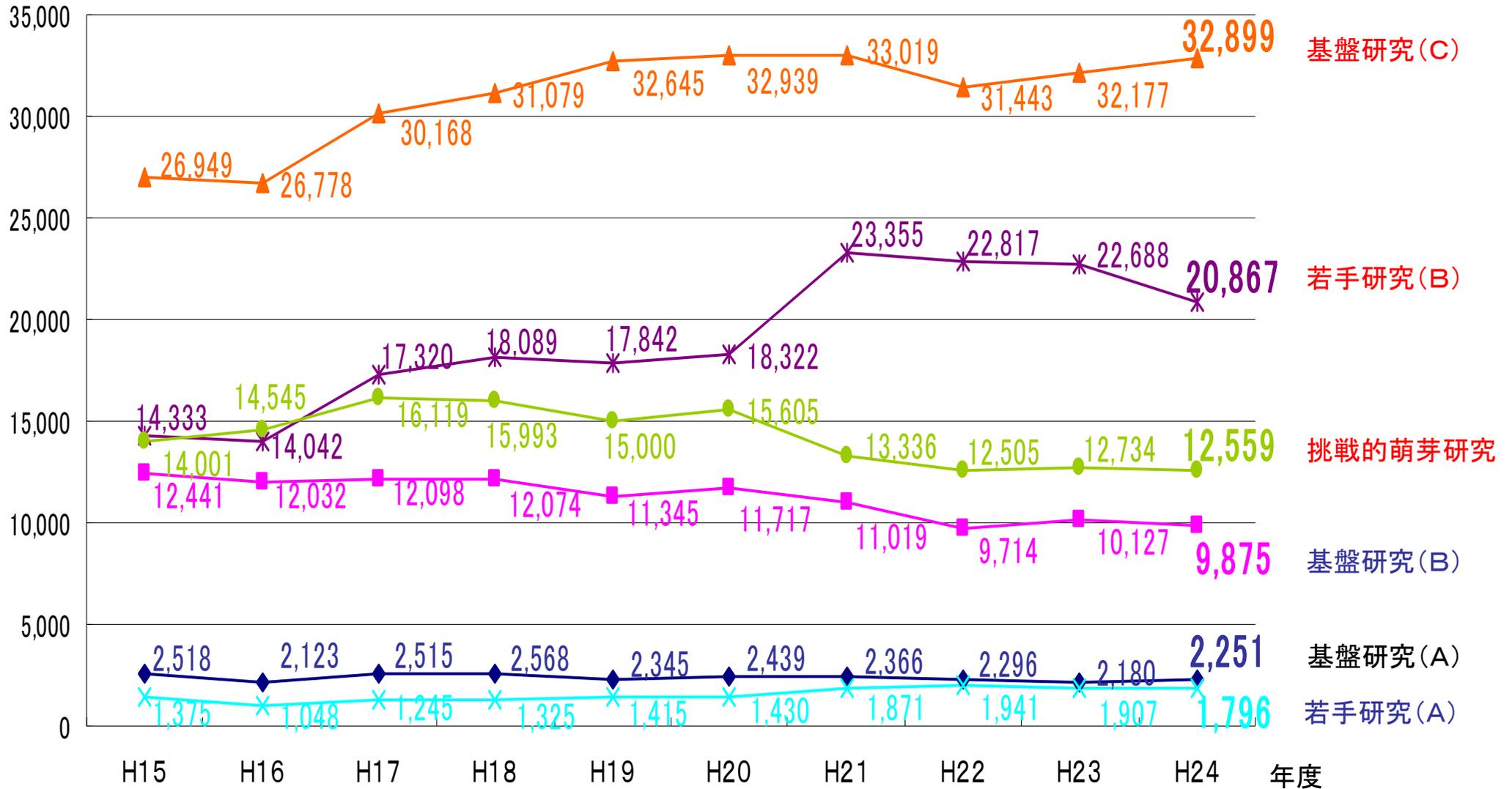
☆ 研究種目毎の間接経費 (平成24年度予算額ベース)

| | |
|--------------|------------|
| ➤ 特別推進研究 | (18. 0億円) |
| ➤ 新学術領域研究 | (81. 4億円) |
| ➤ 基盤研究(S) | (39. 6億円) |
| ➤ 基盤研究(A) | (52. 1億円) |
| ➤ 基盤研究(B) | (121. 8億円) |
| ➤ 基盤研究(C) | (123. 5億円) |
| ➤ 挑戦的萌芽研究 | (32. 0億円) |
| ➤ 若手研究(S) | (4. 0億円) |
| ➤ 若手研究(A) | (20. 1億円) |
| ➤ 若手研究(B) | (66. 2億円) |
| ➤ 研究活動スタート支援 | (5. 4億円) |
| 合計 | (564. 1億円) |

※執行方法等については「競争的資金の間接経費の執行に係る共通指針(平成21年3月27日 競争的資金に関する関係府省連絡会申し合わせ)」を参照のこと。

「基盤研究、若手研究、挑戦的萌芽研究」の応募件数の推移

応募件数



※赤字の種目はH23年度から基金化

※青字の種目はH24年度から一部基金化

科研費の基金化について①

科研費の基金化の導入

- 平成23年度より、研究費の複数年度使用を可能にする「基金化」を導入。
- 平成24年度、対象種目は5種目となり、新規採択課題の9割近くを占める。

【基金化のメリット】

- 会計年度の制約がないため、研究費の柔軟な執行が可能。ムダな「予算の使い切り」不要。
- 予算の効果的・効率的な使用により、研究者の研究活動が活性化。
- 研究者や研究機関の事務負担が軽減される。

基金化の効果(研究機関、研究者に対するアンケート調査の結果から)

◎ 基金化のメリットを確認し、早期の基金化拡大を求める回答が多数。

- ・「研究費を自由に次年度に回せるようになった」「年度末の使い切りをする必要がなくなった」「研究成果の創出にプラスの効果がある」「年度末から年度始めの期間に途切れることなく研究を進められた」とのメリット。
- ・補助金分と基金分の混在による研究費の執行管理の複雑化について改善が必要。
- ・早期にすべての種目を基金化すべき。

◎ 他方、基金制度の内容が研究現場に浸透していない状況が見られる。

【研究者からの声】

- ・基金化の導入について事務局から十分な周知がなかった。
- ・基金化後も年度末の物品購入の×切があり、年度をまたぐ物品購入ができなかった。
- ・できるだけ研究費の執行を次年度に回さないよう事務局から指示があった。

【研究機関からの声】

- ・研究者、事務職員とも従来の年度内執行の概念が払拭し切れていない。
- ・本来の学校会計年度の整理、ルール作り等に関して事務局内で調整がついていない。

科研費の基金化について②

各大学・研究機関にお願いしたいこと

◎ 基金化のメリットが活きるような経理管理の徹底

:事務局内において基金化に対するより一層の理解を深めていただき、基金化のメリットが活きるよう、単年度会計主義の意識にとらわれない経理管理の徹底をお願いしたい。

【留意点の例】

- ・年度末における物品購入の×切を設けない。
- ・年度をまたぐ契約・物品購入を禁止しない。

◎ 所属の研究者に対する基金化の内容の確実な周知

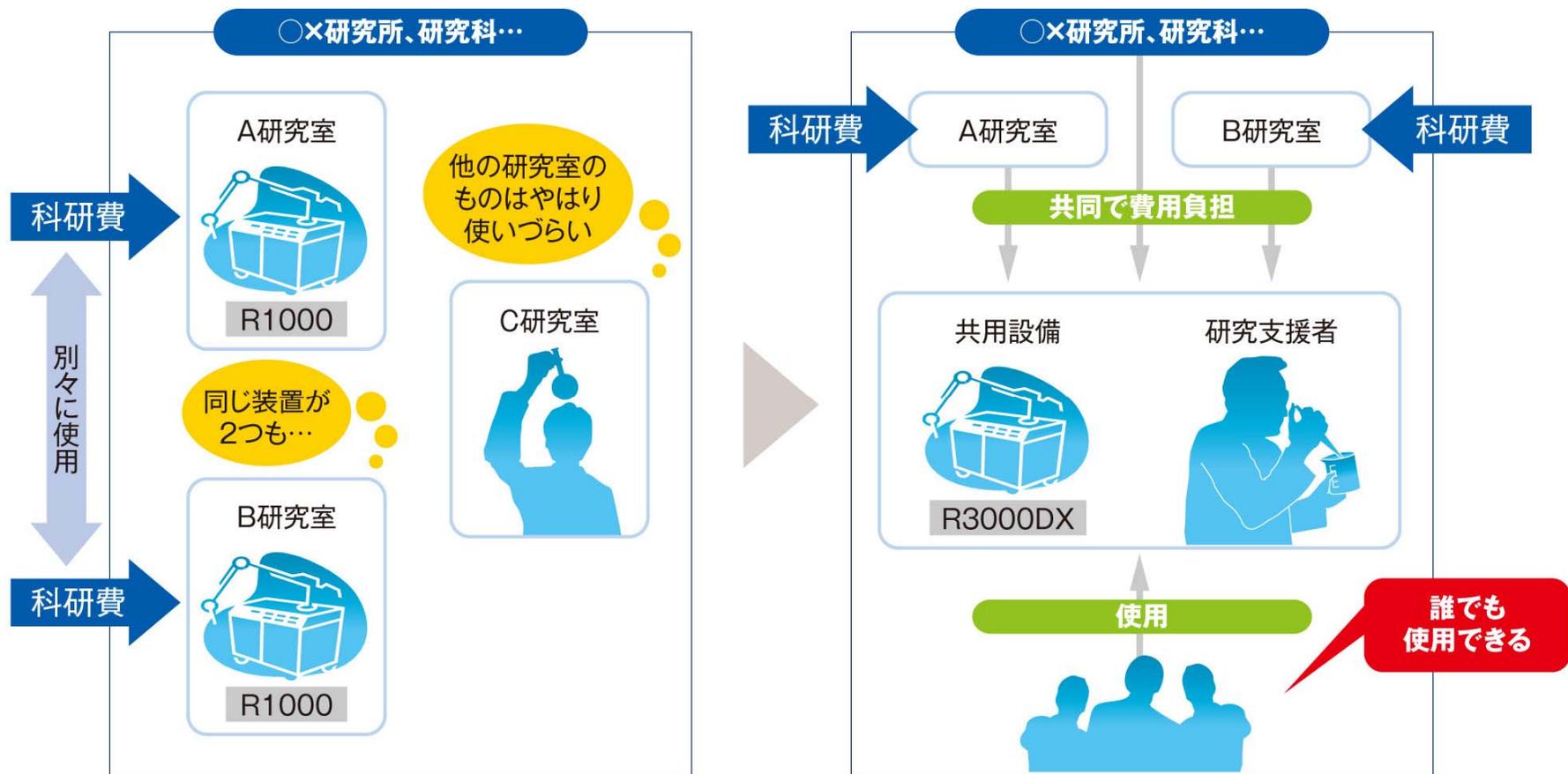
:所属の研究者が基金制度について理解を深め、研究費を効果的・効率的に使用して研究に取り組むことができるよう、補助金との違い、基金のメリットの確実な周知をお願いしたい。

【基金化に関する参考資料】

http://www.jsps.go.jp/j-grantsinaid/01_seido/06_kikinka/index.html

複数の科研費の合算による共用設備購入について①

- 平成24年度より、複数の科研費やその他の経費を合算して共用設備を共同で購入できるようにした。
- 研究費使用の効率化や、これまで研究者が単独では購入が難しかった高額な機器を共用設備として購入することが可能になるなどの研究費使用の自由度の向上により、より一層の研究の進展が期待。



複数の科研費の合算による共用設備購入について②

各大学・研究機関にお願いしたいこと

- 各大学・研究機関において、以下の点にも留意しながら、科研費の合算使用を活用した設備の共用を積極的に促進し、研究基盤の整備と科研費の効率的な使用を図っていただきたい。

【留意点】

- ・設備購入に係る各研究者の負担額の割合を適切に定める。
 - ・設備の共用に関し機関内でルールを定め、組織として適切に管理・運用する。
 - ・研究機関内で共有設備に関する情報を共有し、設備の有効活用が図られるようにする。
- ※運営費交付金など使途に制限のない経費を加えて、複数の科研費による合算額以上の設備の購入も可能

共用設備購入の促進に関する取組例（研究機関への調査結果から）

◎ 共用設備購入の具体的な例

- ・4件の科研費を合算して、ナノレベルの立体形状と粘弾性の観察ができる原子間力顕微鏡を購入。(1,100万円)
- ・2件の科研費と運営費交付金を合算して、当初予定のものより処理能力が高い解析装置を購入。(300万円)

◎ 共用設備の活用を促進していくために必要と考えられる研究機関の取組例

- ・学内説明会を開催し、事務手続きなどについて研究者へ周知。
- ・共用設備の使用方法、管理方法等についての学内ルールの整備。
- ・共用設備設置のためのスペース確保や、維持管理を支援するための専門職員の確保。
- ・学内ホームページ等を活用し、学内で購入希望がある類似設備の情報や使用可能な共用設備の一覧を共有。

※複数の科研費による共用設備の購入について、「共用設備購入の進め方」「共用設備の購入に関するFAQ」「共用設備購入の実例」を文部科学省HP (http://www.mext.go.jp/a_menu/shinkou/hojyo/main5_a5.htm) で公開しますので、ご覧ください。

「科学研究費助成事業(科研費)の在り方について 審議のまとめ(その2)」 概要①

趣旨

第4期科学技術基本計画や大学改革をめぐる議論など、新たな情勢等を踏まえ、平成25年度以降の科研費等による学術研究助成の在り方について審議をとりまとめたもの

現状

1. 大学における研究力強化のための支援

- ・論文数等による我が国の国際プレゼンスが低下傾向。
- ・基盤的経費の削減により、競争的資金による研究を含めた研究体制・環境に支障。
- ・それを改善するための学長の裁量権・資源が不足。
- ・学術研究基盤の脆弱化・機関間の格差拡大による研究の多様性・人材流動性低下→我が国の学術・科学技術の活力低下が懸念。

2. 科研費の基金化の拡大

- ・基金化の対象種目は5種目:新規採択課題数の約9割を占めるが、配分額では4割。
- ・基金化の効果に関する検証の結果、基金化のメリットは大きく、早期の基金化拡大を求める回答が多数。

今後の在り方

- 研究面で国際競争力を有する大学(「リサーチ・ユニバーシティ」)の層を厚くすることが必要。
(文部科学省「大学改革実行プラン」)
- 各大学において学長のリーダーシップの下、研究戦略に基づく魅力ある研究環境の構築により、科研費を含めた競争的資金による研究が一層効果的に行われる好循環の創出が必要。
- 基盤的経費と競争的資金によるデュアル・サポートの維持を基本としながらも、大学の研究力を強化するために新たな追加支援方策が必要。

- 科研費の全額の基金化が望ましい。
- 財政効率の観点から、すでに(独)日本学術振興会に創設された「学術研究助成基金」を他種目の研究費前倒し等にも柔軟に活用できるようにするなど、できるだけ予算増を伴わない基金化の仕組みの検討が必要。

3. 新学術領域研究の改善

- ・(制度導入時(H20)からこれまでの評価)
異分野連携による多様な視点・手法の取り込みによる研究の発展や、領域内の密接なコミュニティによる若手研究者育成
- ・(課題)
 - ①領域研究の更なる発展のための継続的支援
 - ②公募研究の設定等
 - ③新学術領域研究と他の研究種目との重複制限の緩和
 - ④既存分野への支援

- ①過去に採択された領域研究をベースとする場合、その研究成果・評価を審査に適切に反映。
- ②公募研究の2件までの重複を認めるとともに、公募研究の規模に一定の件数・予算額の基準を設定。
- ③新学術領域研究計画研究研究者と基盤研究(S)研究者、及び新学術領域計画研究研究者・公募研究者と特別推進研究分担者の重複受給を認める。
- ④既存分野の研究の深化、新展開、水準向上等を目的とする研究も重要であることを明確化。

4. 研究成果公開促進費「学術定期刊行物」の改善

- ・研究成果の国際社会への発信による我が国の学術研究の展開促進や国民の研究成果へのアクセシビリティの向上のため、学術情報の電子化やオープンアクセス化に対応した支援が課題。

- ①種目名を「国際情報発信強化」に変更
- ②電子ジャーナルの発行等に必要経費の助成
- ③国際情報発信強化に向けた新たな取組の評価
- ④オープンアクセス誌の育成の支援のための制度改善が必要

※本文は、文部科学省HP

(http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/gijyutu/gijyutu4/toushin/1324540.htm)に掲載

謝辞 (Acknowledgment) の記載について

○科研費により得た研究成果を発表する場合は、科研費により助成を受けたことを必ず表示してください。

○謝辞 (Acknowledgment) に、科研費により助成を受けた旨を記載する場合には、**「MEXT/JSPS KAKENHI Grant Number 8桁の課題番号」**を必ず含めてください。

- ・文部科学省から交付を受けた科研費の場合：
MEXT KAKENHI Grant Number 8桁の課題番号
- ・日本学術振興会から交付を受けた科研費の場合：
JSPS KAKENHI Grant Number 8桁の課題番号

この記載方法を必ず守ってください。

○謝辞 (Acknowledgment) の記載例は次のとおりです。

- ・論文に関する科研費が一つの場合（課題番号「12345678」）

【英文】: This work was supported by JSPS KAKENHI Grant Number 12345678.

【和文】: 本研究はJSPS科研費 12345678の助成を受けたものです。

- ・論文に関する科研費が複数（三つ）の場合
（課題番号「23456789」「34567890」「45678901」）

【英文】: This work was supported by JSPS KAKENHI Grant Number 23456789, 34567890, 45678901.

【和文】: 本研究はJSPS科研費 23456789, 34567890, 45678901の助成を受けたものです。

科研費ロゴタイプについて

科学研究費助成事業について広く社会に伝え、より一層国民からの理解を得るために



科研費による研究成果を研究機関のホームページで公開する際や、学会、シンポジウムでの発表、または報道発表をする際などに、積極的に使用してください。

科研費ロゴタイプ

○文部科学省ホームページ : http://www.mext.go.jp/a_menu/shinkou/hojyo/1321563.htm

○日本学術振興会ホームページ : http://www.jsps.go.jp/j-grantsinaid/06_jsps_info/g_120612/index.html

平成24年度科研費(補助金分・基金分)配分状況一覧(新規)

| 研究種目 | 研究課題数 | | | 配分額 | 1課題あたりの配分額 | |
|-------------------------|----------------------------------|----------------------------------|------------------------------|---|---------------------------------|-----------------------------------|
| | 応募 | 採択 | 採択率 | | 平均 | 最高 |
| 科学研究費 | 件 〔 89,800 〕 86,874 | 件 〔 25,759 〕 24,673 | % 〔 28.7 〕 28.4 | 千円 〔 62,176,350 〕 56,640,420 【 16,879,536 】 | 千円 〔 2,414 〕 2,296 | 千円 〔 32,900 〕 34,400 |
| 特定領域研究 *1 | 〔 177 〕 9 | 〔 80 〕 9 | 〔 45.2 〕 — | 〔 239,600 〕 25,400 | 〔 2,995 〕 2,822 | 〔 3,300 〕 3,000 |
| 新学術領域研究 *2 (研究領域提案型) | 〔 4,072 〕 2,822 | 〔 1,147 〕 712 | 〔 28.2 〕 25.2 | 〔 3,683,150 〕 2,596,900 【 779,070 】 | 〔 3,211 〕 3,647 | 〔 9,000 〕 10,000 |
| 基盤研究(A) | 〔 2,180 〕 2,251 | 〔 565 〕 535 | 〔 25.9 〕 23.8 | 〔 7,478,000 〕 6,985,500 【 2,095,650 】 | 〔 13,235 〕 13,057 | 〔 32,900 〕 34,400 |
| 基盤研究(B) *3 | 〔 10,127 〕 9,875 | 〔 2,592 〕 2,440 | 〔 25.6 〕 24.7 | 〔 14,688,900 〕 13,200,800 【 3,960,240 】 | 〔 5,667 〕 5,410 | 〔 14,300 〕 13,300 |
| 基盤研究(C) *4 | 〔 32,177 〕 32,899 | 〔 9,620 〕 9,857 | 〔 29.9 〕 30.0 | 〔 15,564,500 〕 15,332,520 【 4,599,756 】 | 〔 1,618 〕 1,555 | 〔 4,200 〕 3,800 |

平成24年度科研費(補助金分・基金分)配分状況一覧(新規)(続き)

| 研究種目 | 研究課題数 | | | 配分額 | 1課題あたりの配分額 | |
|------------|---------------|---------------|-------------|-----------------------|--------------|---------------|
| | 応募 | 採択 | 採択率 | | 平均 | 最高 |
| 科学研究費 | 件 | 件 | % | 千円 | 千円 | 千円 |
| 挑戦的萌芽研究 *4 | [12,734] | [3,809] | [29.9] | [5,916,100] | [1,553] | [3,400] |
| | 12,559 | 3,759 | 29.9 | 5,692,800 | 1,514 | 3,100 |
| | | | | [1,707,840] | | |
| 若手研究(A) *3 | [1,907] | [459] | [24.1] | [3,859,300] | [8,408] | [21,700] |
| | 1,796 | 399 | 22.2 | 3,243,100 | 8,128 | 19,700 |
| | | | | [972,930] | | |
| 若手研究(B) *4 | [22,688] | [6,787] | [29.9] | [10,396,800] | [1,532] | [3,400] |
| | 20,867 | 6,255 | 30.0 | 9,213,500 | 1,473 | 3,400 |
| | | | | [2,764,050] | | |
| 奨励研究 | [3,738] | [700] | [18.7] | [350,000] | [500] | [900] |
| | 3,796 | 707 | 18.6 | 349,900 | 495 | 800 |
| | | | | | | |
| 研究成果公開促進費 | [1,045] | [521] | [49.9] | [1,139,090] | [2,186] | [26,900] |
| | 961 | 491 | 51.1 | 1,029,060 | 2,096 | 20,000 |
| | | | | | | |
| 合計 | [90,845] | [26,280] | [28.9] | [63,315,440] | [2,409] | [32,900] |
| | 87,835 | 25,164 | 28.6 | 57,669,480 | 2,292 | 34,400 |
| | | | | [16,879,536] | | |

(注1) []内は、前年度を示す。

(注2) 【 】内は、間接経費(外数)。

(注3) *1は、平成24年度の新規・継続領域に係る公募はなく、平成23年度に設定期間が終了した研究領域の取りまとめのみが公募対象。

(注4) *2は、平成24年度の新規領域については審査中であるため、継続領域の新規課題のみ計上。

(注5) *3は、一部基金化研究種目であるため、「配分額」欄及び「1課題あたりの配分額」欄には平成24年度の当初計画に対する配分額を計上。

(注6) *4は、基金化研究種目であるため、「配分額」欄及び「1課題あたりの配分額」欄には平成24年度の当初計画に対する配分額を計上。

(注7) 「特別研究促進費」及び「特定奨励費」は除く。

平成24年度科研費(補助金分・基金分)配分状況一覧(新規+継続分)

| 研究種目 | 研究課題数 | | | 配分額 | 1課題あたりの配分額 | |
|-------------------------|------------------------------------|----------------------------------|------------------------------|--|---------------------------------|-------------------------------------|
| | 応募 | 採択 | 採択率 | | 平均 | 最高 |
| 科学研究費 | 件 〔 127,403 〕 130,324 | 件 〔 63,310 〕 67,961 | % 〔 49.7 〕 52.1 | 千円 〔 149,213,117 〕 155,012,892 【 46,134,148 〕 | 千円 〔 2,357 〕 2,281 | 千円 〔 213,000 〕 159,200 |
| 特別推進研究 *1 | 〔 64 〕 59 | 〔 64 〕 59 | 〔 — 〕 — | 〔 4,891,900 〕 4,571,600 【 1,371,480 〕 | 〔 76,436 〕 77,485 | 〔 213,000 〕 159,200 |
| 特定領域研究 | 〔 599 〕 117 | 〔 501 〕 117 | 〔 83.6 〕 — | 〔 3,206,600 〕 882,500 | 〔 6,400 〕 7,543 | 〔 45,000 〕 42,000 |
| 新学術領域研究 *2 (研究領域提案型) | 〔 5,116 〕 4,842 | 〔 2,191 〕 2,732 | 〔 42.8 〕 56.4 | 〔 17,285,350 〕 21,045,350 【 6,313,605 〕 | 〔 7,889 〕 7,703 | 〔 122,400 〕 135,400 |
| 新学術領域研究 *3 (研究課題提案型) | 〔 78 〕 1 | 〔 78 〕 1 | 〔 — 〕 — | 〔 540,900 〕 3,869 【 1,161 〕 | 〔 6,935 〕 3,869 | 〔 7,900 〕 3,869 |
| 基盤研究(S) *1 | 〔 337 〕 348 | 〔 335 〕 348 | 〔 — 〕 — | 〔 8,243,100 〕 9,229,300 【 2,768,790 〕 | 〔 24,606 〕 26,521 | 〔 83,600 〕 87,900 |
| 基盤研究(A) | 〔 3,562 〕 3,784 | 〔 1,940 〕 2,054 | 〔 54.5 〕 54.3 | 〔 18,059,800 〕 18,888,800 【 5,666,640 〕 | 〔 9,309 〕 9,196 | 〔 32,900 〕 34,400 |
| 基盤研究(B) *4 | 〔 15,983 〕 15,837 | 〔 8,421 〕 8,358 | 〔 52.7 〕 52.8 | 〔 33,172,735 〕 32,515,800 【 9,754,740 〕 | 〔 3,939 〕 3,890 | 〔 14,300 〕 13,300 |
| 基盤研究(C) *5 | 〔 48,621 〕 51,301 | 〔 26,062 〕 28,211 | 〔 53.6 〕 55.0 | 〔 29,056,997 〕 31,815,351 【 9,544,605 〕 | 〔 1,115 〕 1,128 | 〔 4,200 〕 3,800 |

平成24年度科研費(補助金分・基金分)配分状況一覧(新規+継続分)(続き)

| 研究種目 | 研究課題数 | | | 配分額 | 1課題あたりの配分額 | |
|--------------------|-------------------------------|-----------------------------|-------------------------|---|-----------------------------|-------------------------------|
| | 応募 | 採択 | 採択率 | | 平均 | 最高 |
| 科学研究費 | 件 | 件 | % | 千円 | 千円 | 千円 |
| 挑戦的萌芽研究 * 5 | [14,576] 16,541 | [5,651] 7,735 | [38.8] 46.8 | [7,665,964] 9,476,700 【 2,843,010 】 | [1,357] 1,225 | [3,400] 3,100 |
| 若手研究(S) * 3 | [108] 50 | [107] 47 | [99.1] 94.0 | [1,352,100] 540,100 【 162,030 】 | [12,636] 11,491 | [22,800] 19,000 |
| 若手研究(A) * 4 | [2,617] 2,646 | [1,165] 1,244 | [44.5] 47.0 | [6,626,303] 6,921,164 【 2,076,349 】 | [5,688] 5,564 | [21,700] 19,700 |
| 若手研究(B) * 5 | [31,183] 30,211 | [15,274] 15,557 | [49.0] 51.5 | [17,922,189] 17,942,303 【 5,382,691 】 | [1,173] 1,153 | [3,400] 3,400 |
| 研究活動スタート支援 * 1 | [821] 791 | [821] 791 | [—] — | [839,179] 830,155 【 249,047 】 | [1,022] 1,050 | [1,500] 1,500 |
| 奨励研究 | [3,738] 3,796 | [700] 707 | [18.7] 18.6 | [350,000] 349,900 | [500] 495 | [900] 800 |
| 研究成果公開促進費 | [1,084] 1,006 | [560] 536 | [51.7] 53.3 | [1,280,990] 1,166,960 | [2,287] 2,177 | [26,900] 20,000 |
| 学術創成研究費 * 6 | [18] — | [18] — | [—] — | [1,208,300] — 【 — 】 | [67,128] — | [89,500] — |
| 合 計 | [128,505] 131,330 | [63,888] 68,497 | [49.7] 52.2 | [151,702,407] 156,179,852 【 46,134,148 】 | [2,375] 2,280 | [213,000] 159,200 |

(注1) 本資料は、今年度採択された新規課題に既に採択されている継続課題を加え集計したものの。

(注2) []内は、前年度を示す。

(注3) 【 】内は、間接経費(外数)。

(注4) * 1は、平成24年度の新規課題については審査中であるため、継続課題のみ計上。

(注5) * 2は、平成24年度の新規領域については審査中であるため、継続領域の新規課題及び継続課題を計上。

(注6) * 3は、平成24年度の新規募集なし。

(注7) * 4のうち、新規課題は一部基金化研究種目であるため、「配分額」欄及び「1課題あたりの配分額」欄には平成24年度の当初計画に対する配分額を計上。

(注8) * 5のうち、平成23年度及び平成24年度採択課題は基金化研究種目であるため、「配分額」欄及び「1課題あたりの配分額」欄には平成24年度の当初計画に対する配分額を計上。

(注9) * 6は、平成24年度の新規募集、継続課題なし。

(注10) 「新学術領域研究(研究領域提案型)」「生命科学系3分野支援活動」、「特別研究促進費」及び「特定奨励費」は除く。

平成 2 5 年度
科学研究費助成事業—科研費—
公募要領等について

【主な説明内容】

1. 公募要領等の主な変更点等について

(1). 文部科学省公募分、日本学術振興会公募分に共通する事項

- ①基金化種目の拡大について
- ②「系・分野・分科・細目表」の改正について
- ③バイオサイエンスデータベースセンターへの協力について

(2). 文部科学省公募分に関する事項

○新学術領域研究(研究領域提案型)の変更点について

(3). 日本学術振興会公募分に関する事項

○若手研究(B)の審査希望細目の選定数について

(4). 応募情報入力及び研究計画調書の主な変更点について

- ①応募情報入力画面の英語併記等について
- ②研究計画調書の主な変更点について

2. 科研費に応募するにあたって留意する事項

(1). 応募者において特に留意する事項

- ①研究計画最終年度前年度の応募について
- ②若手研究(A・B)の受給回数の制限について
- ③時限付き分科細目の応募に関する注意点について
- ④研究計画調書、領域計画書のPDF変換について

(2). 研究機関において特に留意する事項

- ①研究者情報の登録について
- ②「研究機関における公的研究費の管理・監査のガイドライン(実施基準)」に基づく「体制整備等の自己評価チェックリスト」の提出について

1. 公募要領等の主な変更点等について

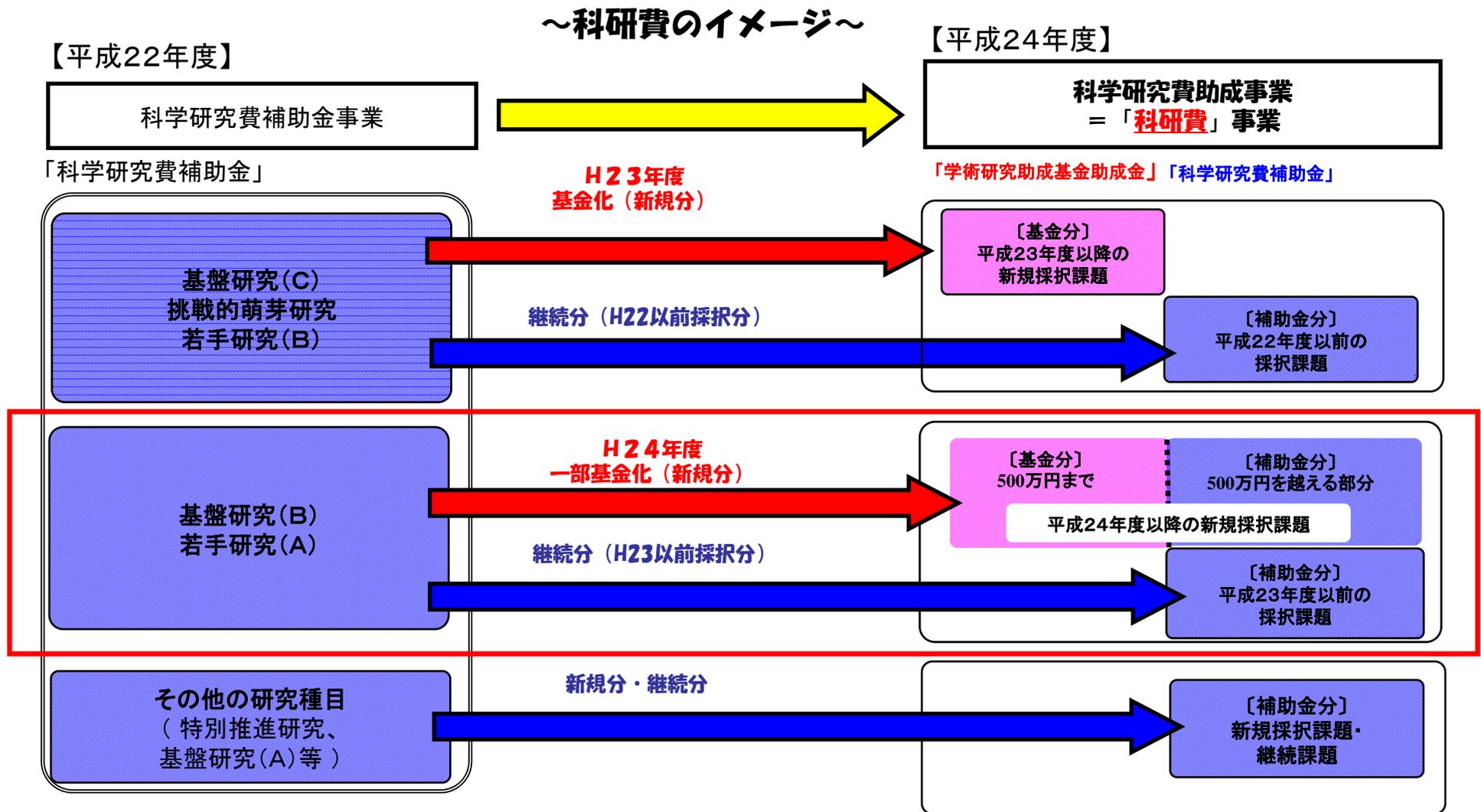
(1). 文部科学省公募分、日本学術振興会公募分に共通する事項

- ①基金化種目の拡大について
- ②「系・分野・分科・細目表」の改正について
- ③バイオサイエンスデータベースセンターへの協力について

①基金化種目の拡大について（1）

（公募要領P1（文科）、P2（学振））

「基盤研究(B)」及び「若手研究(A)」の平成24年度以降新規採択分を一部基金化しました(研究費総額のうち500万円以下)。



①基金化種目の拡大について（2）

（公募要領「はじめに」（学振））

○日本学術振興会が所管する研究種目一覧【補助金分・基金分・一部基金分】

| 研究種目 | 科研費（補助金分） | 科研費（基金分） | 科研費（一部基金分） |
|-----------|--------------------------------|--|--|
| 特別推進研究 | ・全研究課題 （新規・継続） | | |
| 基盤研究（S・A） | ・全研究課題 （新規・継続） | | |
| 基盤研究（B） | ・ <u>23年度以前</u> 採択 研究課題（継続） | | ・24年度採択研究課題（継続） ・ <u>今回公募分</u> （新規） |
| 基盤研究（C） | ・ <u>22年度以前</u> 採択 研究課題（継続） | ・ <u>23・24年度</u> 採択研究 課題（継続） ・ <u>今回公募分</u> （新規） | |
| 挑戦的萌芽研究 | ・ <u>22年度以前</u> 採択 研究課題（継続） | ・ <u>23・24年度</u> 採択研究 課題（継続） ・ <u>今回公募分</u> （新規） | |
| 若手研究（A） | ・ <u>23年度以前</u> 採択 研究課題（継続） | | ・24年度採択研究課題（継続） ・ <u>今回公募分</u> （新規） |
| 若手研究（B） | ・ <u>22年度以前</u> 採択 研究課題（継続） | ・ <u>23・24年度</u> 採択研究 課題（継続） ・ <u>今回公募分</u> （新規） | |

※文部科学省公募分はすべて科研費（補助金分）。

※予算の状況によっては、今後、措置する財源等、内容に変更があり得ます。

②「系・分野・分科・細目表」の改正について（1）

（公募要領P78～104（文科）、P32～57（学振））

分科細目表全体について大幅な見直しを行いました。

①総合系の創設（現在の「総合・新領域系」の見直し）

「総合・新領域系」を見直し、「情報学」、「環境学」、「複合領域」の3つの分野で構成する「総合系」を創設しました。

②「人文社会系」、「理工系」、「生物系」に総合領域分野の創設

現在「総合・新領域系」に位置付けられている分科・細目のうち、「人文社会系」、「理工系」、「生物系」のいずれかの系に位置付けることが適当なものについては、各系に総合的、複合・融合的な領域に係る分科・細目を位置付ける分野を創設し、当該分野に位置付けました。

【新たに創設した総合領域分野】

- ・ 人文社会系 ・ ・ ・ **総合人文社会**
- ・ 理工系 ・ ・ ・ **総合理工**
- ・ 生物系 ・ ・ ・ **総合生物**

②「系・分野・分科・細目表」の改正について（2）

③分科・細目等の新設及び統廃合

現在の学問動向に照らして応募しやすいものとなるよう、分科・細目の名称や、各細目の内容を示すキーワードを見直すなど、分科、細目の新設及び統廃合等を実施しました。

| | 平成24年度(旧) | 平成25年度以降(新) |
|-----|-----------|-------------|
| 系 | 4 | 4 |
| 分野 | 10 | 14 |
| 分科数 | 70 | 78 |
| 細目数 | 298 | 319 |

「系・分野・分科・細目表」の改正については、「[科学研究費助成事業－科研費－「系・分野・分科・細目表」の改正について](#)（平成24年3月23日 科学技術・学術審議会学術分科会科学研究費補助金審査部会）」においても改正内容等を紹介しています。本文については、文部科学省ホームページ

（http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/gijyutu/gijyutu4/toushin/1320054.htm）をご覧ください。

③ バイオサイエンスデータベースセンターへの協力について

(公募要領 P 7 (文科)、P 7 (学振))

- バイオサイエンスデータベースセンター (NBDC) は、様々な研究機関等によって作成されたライフサイエンス分野のデータベースの統合的な利用を推進するために、平成 23 年 4 月に (独) 科学技術振興機構に設置されました。
- 同センターでは、関連機関に積極的な参加を働きかけるとともに、戦略の立案、ポータルサイトの構築・運用、データベース統合化基盤技術の研究開発、バイオ関連データベース統合化の推進を 4 つの柱として事業を推進しています。
- ライフサイエンス分野に関する論文発表等で公表された 成果に関わる生データの複製物、又は構築した公開用データベースの複製物について、同センターへの提供にご協力ください。

具体的なデータの提供方法等については、直接センターにご相談ください。

【問い合わせ先】

(独) 科学技術振興機構 バイオサイエンスデータベースセンター

TEL : 03-5214-8491

1. 公募要領等の主な変更点等について

(2). 文部科学省公募分に関する事項

○新学術領域研究(研究領域提案型)の変更点 について

○新学術領域研究（研究領域提案型）の変更点について（1）

（公募要領P10～P12（文科））

新学術領域研究について、領域研究の発展及び人材育成の観点から重複制限等の改善が行われました。

①公募研究の見直し

- これまで1件とされていた公募研究への応募・受給を2件（同一領域は不可）まで認める。
- 新規領域の申請時、公募研究の規模については、採択目安件数10件または公募研究にかかる経費の総額が領域全体の研究経費の10%のどちらかを上回るよう設定すること。（最低基準）
- 最低基準を上回るにとどまらず、新学術領域研究の目的及び当該領域の特性を踏まえ、当該領域の研究の幅広い発展を目指す上で必要な件数及び必要な金額とするよう努めること。

○新学術領域研究（研究領域提案型）の変更点について（2）

（公募要領P28（文科））

②他の研究種目との重複制限の見直し

- ・新学術領域研究の計画研究代表者（領域代表者を除く）と基盤研究（S）研究代表者の重複応募・受給を認める。

【平成24年度公募要領の重複制限一覧表(抜粋)】(公募要領P24参照) 【平成25年度公募要領の重複制限一覧表(抜粋)】(公募要領P28参照)

・「研究代表者(新規・継続)(甲欄)→研究代表者(乙欄)」型

・「研究代表者(新規・継続)(甲欄)→研究代表者(乙欄)」型

| 乙欄 | | | 新学術領域研究 (研究領域提案型) | | | | | | 特別 推進 研究 | 基盤 研究 (S) | 基盤 研究 (A) | 基盤 研究 (B) | 基盤 研究 (C) | 若手 研究 (A) | 若手 研究 (B) | 挑 戦 的 萌 芽 研 究 |
|----------------------|------|----|----------------------|----------|----------|---------------|----------|----------|----------------|-----------------|-----------------|-----------------|-----------------|-----------------|-----------------|---------------------------------|
| | | | 甲欄と同一の 研究領域 | | | 甲欄以外 の研究領域 | | | | | | | | | | |
| | | | 新規領域 | | 継続領域 | 計画研究 | | 公募研究 | | | | | | | | |
| | | | 総括 班 | 計画 研究 | 計画 研究 | 公募 研究 | 計画 研究 | 公募 研究 | | | | | | | | |
| 甲欄 | | | 新規 | 新規 | 新規 | 新規 | 新規 | 新規 | 新規 | 新規 | 新規 | 新規 | 新規 | 新規 | | |
| | | | 代表者 | 代表者 | 代表者 | 代表者 | 代表者 | 代表者 | 代表者 | 代表者 | 代表者 | 代表者 | 代表者 | 代表者 | | |
| 新学術領域研究 (研究領域提案型) | 総括班 | 新規 | 代表者 | - | / | / | × | ■ | × | ■ | | | | | | |
| | | 継続 | 代表者 | / | / | / | - | ▲ | ▲ | ▲ | | | | | | |
| | 計画研究 | 新規 | 代表者 | - | - | - | × | ■ | □ | ※ | | | | | | |
| | | 継続 | 代表者 | / | / | / | - | ▲ | ▲ | □ | ▲ | | | | | |
| | 公募研究 | 新規 | 代表者 | / | / | / | - | □ | × | □ | | | | | | |
| | | 継続 | 代表者 | / | / | / | □ | ▲ | □ | | | | | | | |

| 乙欄 | | | 新学術領域研究 (研究領域提案型) | | | | | | 特別 推進 研究 | 基盤 研究 (S) | 基盤 研究 (A) | 基盤 研究 (B) | 基盤 研究 (C) | 若手 研究 (A) | 若手 研究 (B) | 挑 戦 的 萌 芽 研 究 |
|----------------------|------|----|----------------------|----------|----------|---------------|----------|----------|----------------|-----------------|-----------------|-----------------|-----------------|-----------------|-----------------|---------------------------------|
| | | | 甲欄と同一の 研究領域 | | | 甲欄以外 の研究領域 | | | | | | | | | | |
| | | | 新規領域 | | 継続領域 | 計画研究 | | 公募研究 | | | | | | | | |
| | | | 総括 班 | 計画 研究 | 計画 研究 | 公募 研究 | 計画 研究 | 公募 研究 | | | | | | | | |
| 甲欄 | | | 新規 | 新規 | 新規 | 新規 | 新規 | 新規 | 新規 | 新規 | 新規 | 新規 | 新規 | 新規 | | |
| | | | 代表者 | 代表者 | 代表者 | 代表者 | 代表者 | 代表者 | 代表者 | 代表者 | 代表者 | 代表者 | 代表者 | 代表者 | | |
| 新学術領域研究 (研究領域提案型) | 総括班 | 新規 | 代表者 | - | / | / | × | ■ | × | ■ | | | | | | |
| | | 継続 | 代表者 | / | / | / | - | ▲ | ▲ | ▲ | | | | | | |
| | 計画研究 | 新規 | 代表者 | - | - | - | × | ■ | □ | 空欄 | | | | | | |
| | | 継続 | 代表者 | / | / | / | - | ▲ | ▲ | □ | 空欄 | | | | | |
| | 公募研究 | 新規 | 代表者 | / | / | / | - | □ | ◆ | □ | | | | | | |
| | | 継続 | 代表者 | / | / | / | □ | ◆ | □ | | | | | | | |

※双方の研究課題とも応募できるが、双方採択となった場合には、いずれか一方の研究課題の研究のみ実施する。

空欄：双方の研究課題とも応募できる。

▲乙欄の研究課題に応募できない。(甲欄の継続研究課題の研究のみ実施する)

○新学術領域研究（研究領域提案型）の変更点について（3）

- ・新学術領域研究の計画研究代表者（領域代表者を除く）・公募研究代表者と特別推進研究の研究分担者の重複応募・受給を認める。

【平成24年度公募要領の重複制限一覧表(抜粋)】(公募要領P24参照) 【平成25年度公募要領の重複制限一覧表(抜粋)】(公募要領P28参照)

・「研究代表者(新規・継続)(甲欄)→研究分担者(乙欄)」型

・「研究代表者(新規・継続)(甲欄)→研究分担者(乙欄)」型

| 乙欄 | | | | 新学術領域研究 (研究領域提案型) | | | | 特別 推進 研究 | 基 盤 研 究 (S) | 基 盤 研 究 (A) | 基 盤 研 究 (B) | 基 盤 研 究 (C) | 挑 戦 的 萌 芽 研 究 |
|----------------------|------|----|-----|----------------------|-------------------|---------------------------|-------------------|-------------------|-------------------------|-------------------------|-------------------------|-------------------------|---------------------------------|
| | | | | 甲欄と同一の 研究領域 | | 甲欄 以外 の 研究 領域 | | | | | | | |
| | | | | 新規領域 | | 継続 領域 | | | | | | | |
| | | | | 総括 班 | 計画 研究 | 計画 研究 | 計画 研究 | | | | | | |
| | | | | 新規 分 担 者 | 新規 分 担 者 | 新規 分 担 者 | 新規 分 担 者 | | | | | | |
| 甲欄 | | | | 新規 分 担 者 | 新規 分 担 者 | 新規 分 担 者 | 新規 分 担 者 | 新規 分 担 者 | 新規 分 担 者 | 新規 分 担 者 | 新規 分 担 者 | | |
| 新学術領域研究 (研究領域提案型) | 総括班 | 新規 | 代表者 | - | | × | × | | | | | | |
| | | 継続 | 代表者 | | | ▲ | ▲ | | | | | | |
| | 計画研究 | 新規 | 代表者 | | - | - | × | □ | | | | | |
| | | 継続 | 代表者 | | | | - | ▲ | □ | | | | |
| | 公募研究 | 新規 | 代表者 | | | | - | □ | | | | | |
| | | 継続 | 代表者 | | | | | □ | | | | | |

| 乙欄 | | | | 新学術領域研究 (研究領域提案型) | | | | 特別 推進 研究 | 基 盤 研 究 (S) | 基 盤 研 究 (A) | 基 盤 研 究 (B) | 基 盤 研 究 (C) | 挑 戦 的 萌 芽 研 究 |
|----------------------|------|----|-----|----------------------|-------------------|---------------------------|-------------------|-------------------|-------------------------|-------------------------|-------------------------|-------------------------|---------------------------------|
| | | | | 甲欄と同一の 研究領域 | | 甲欄 以外 の 研究 領域 | | | | | | | |
| | | | | 新規領域 | | 継続 領域 | | | | | | | |
| | | | | 総括 班 | 計画 研究 | 計画 研究 | 計画 研究 | | | | | | |
| | | | | 新規 分 担 者 | 新規 分 担 者 | 新規 分 担 者 | 新規 分 担 者 | | | | | | |
| 甲欄 | | | | 新規 分 担 者 | 新規 分 担 者 | 新規 分 担 者 | 新規 分 担 者 | 新規 分 担 者 | 新規 分 担 者 | 新規 分 担 者 | 新規 分 担 者 | | |
| 新学術領域研究 (研究領域提案型) | 総括班 | 新規 | 代表者 | - | | × | × | | | | | | |
| | | 継続 | 代表者 | | | | ▲ | ▲ | | | | | |
| | 計画研究 | 新規 | 代表者 | | - | - | × | | | | | | |
| | | 継続 | 代表者 | | | | - | ▲ | | | | | |
| | 公募研究 | 新規 | 代表者 | | | | - | | | | | | |
| | | 継続 | 代表者 | | | | | | | | | | |

□双方の研究課題とも応募できるが、双方採択となった場合には、乙欄の研究課題の研究のみ実施する。

空欄：双方の研究課題とも応募できる。

○新学術領域研究（研究領域提案型）の変更点について（４）

（公募要領 P 1 0（文科））

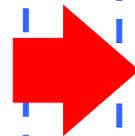
③既存分野への支援の明確化

（平成24年度 公募要領 P 9）

イ) 対象

次のいずれかに該当する**新たな研究領域**であって、協同して推進する複数の研究者で構成される研究グループの有機的な連携の下に領域の学術水準の向上を図ることにより、**革新的・創造的な学術研究の発展が期待できるもの**。

- ・ 既存の学問分野の枠に収まらない**新興・融合領域の創成を目指すもの**。
- ・ 異なる学問分野の研究者が連携して行う共同研究等の推進により、当該研究領域の発展を目指すもの。
- ・ **多様な研究者による新たな視点や手法による共同研究等の推進により、当該研究領域の新たな展開を目指すもの**。
- ・ 当該領域の研究の発展が他の研究領域の研究の発展に大きな波及効果をもたらすもの。
- ・ 学術の国際的趨勢等の観点から見て重要であるが、我が国において立ち遅れており、当該領域の進展に格段の配慮を必要とするもの。



（平成25年度 公募要領 P 1 0）

イ) 対象

次のいずれかに該当する**革新的・創造的な学術研究の発展が期待される研究領域**であって、協同して推進する複数の研究者で構成される研究グループの有機的な連携の下に領域の学術水準の向上を図るもの。

- ・ **多様な研究者による新たな視点や手法による共同研究等の推進により、当該研究領域の新たな展開を目指すもの**。
- ・ 異なる学問分野の研究者が連携して行う共同研究等の推進により、当該研究領域の発展を目指すもの。
- ・ **既存の学問分野の枠に収まらない新興・融合領域の創成を目指すもの**。
- ・ 当該領域の研究の発展が他の研究領域の研究の発展に大きな波及効果をもたらすもの。
- ・ 学術の国際的趨勢等の観点から見て重要であるが、我が国において立ち遅れており、当該領域の進展に格段の配慮を必要とするもの。

○新学術領域研究（研究領域提案型）の変更点について（5）

（公募要領P 1 3（文科））

④成果取りまとめを行うための公募の実施

- 平成24年度に設定期間が終了する21研究領域について、研究成果の取りまとめを行うための公募を実施。
- 資料整理や、公開シンポジウム開催のための経費で、研究を実施するための経費は対象にはならない。
- 「平成24年度に設定期間が終了する研究領域」の領域代表者（総括班の研究代表者）が、研究成果の取りまとめを行うために応募する場合には、研究代表者及び研究分担者について、同一の研究種目及び他の研究種目との間で重複応募の制限は課されない。

1. 公募要領等の主な変更点等について

(3). 日本学術振興会公募分に関する事項

○若手研究(B)の審査希望細目の選定数について

○若手研究（B）の審査希望細目の選定数について（1）

（公募要領P31（学振））

若手研究（B）の審査希望分野について、研究者が新興・融合的で、研究者が複数の分野での審査を希望する場合には、2つの細目を選定できるようにしました。

若手研究（B）に応募する際の細目等の選定の仕方を次のとおりとしました。

○「分科細目表」から適切な細目を「1つ」又は「2つ（研究計画が新興・融合的で複数の分野での審査を希望する場合）」必ず選定する。

○さらに、「キーワード一覧」から選定した細目内で最も関連が深いと思われるキーワードを「1つ」の細目を選定した場合は「1つ」、「2つ」の細目を選定した場合には各細目から1つずつ（計2つ）、それぞれ必ず選定する。

【参考：「2つ」の細目を選定した研究計画の審査の概要（予定）】

- ・「1つ」の細目を選定した研究計画と同様、2段階の審査を行います。
- ・第1段審査は、選定した2細目ごとに、「若手研究（B）」の審査を行う第1段審査委員が書面審査を行います。
- ・第2段審査は、「1つ」の細目を選定した研究計画を審査する委員会とは別に、新たに設ける「2つ」の細目を選定した研究計画のみを審査する4系（総合系、人文・社会系、理工系、生物系）ごとの委員会及び2つの系にまたがる場合にはその調整を行う委員会を設置し、それぞれの委員会において、第1段審査の結果に基づき合議審査を行います。

○若手研究（B）の審査希望細目の選定数について（2）

○科研費電子申請システムの入力方法

平成25年度(2013年度)若手研究(B) 研究計画調書

| | |
|---|--|
| 新規・継続区分 New or Continued | <input type="text"/> (「継続」には、研究計画の大幅な変更を行うおとする継続の課題のみ該当します。) |
| 審査希望分野 Requested Areas for Screening | <input checked="" type="radio"/> ア:1つの細目 <input type="radio"/> イ:2つの細目 |
| 細目番号 Item Number | <input type="text"/> |
| 分割番号 Screening Sub-panel Number | <input type="text"/> |
| 分野 Area | |
| 分科 Discipline | |
| 細目 Research Field | |
| 細目表キーワード Keywords from Keyword List | <input type="text"/> (「細目表キーワード一覧」から、入力するキーワードの「記号」を入力してください。) |
| 細目表以外のキーワード Other Keywords | <input type="text"/> |

「2つの細目」を
チェックすると

平成25年度(2013年度)若手研究(B) 研究計画調書

| | |
|---|--|
| 新規・継続区分 New or Continued | <input type="text"/> (「継続」には、研究計画の大幅な変更を行うおとする継続の課題のみ該当します。) |
| 審査希望分野 Requested Areas for Screening | <input type="radio"/> ア:1つの細目 <input checked="" type="radio"/> イ:2つの細目 |
| 細目番号 Item Number | <input type="text"/> |
| 分割番号 Screening Sub-panel Number | <input type="text"/> |
| 分野 Area | |
| 分科 Discipline | |
| 細目 Research Field | |
| 細目表キーワード Keywords from Keyword List | <input type="text"/> (「細目表キーワード一覧」から、入力した「細目番号」中の該当するキーワードの「記号」を入力してください。) |
| 細目表以外のキーワード Other Keywords | <input type="text"/> |

「2つの細目」が入力で
きるようになります。

1. 公募要領等の主な変更点等について

(4). 応募情報入力及び研究計画調書の主な変更点について

- ① 応募情報入力画面の英語併記等について
- ② 研究計画調書の主な変更点について

①応募情報入力画面の英語併記等について

日本学術振興会が担当する種目の応募情報入力画面で、外国人研究者の科研費への応募をよりしやすくするため、各項目の英語訳の併記や、研究課題名の文字制限の変更をしました。

平成25年度(2013年度)若手研究(B) 研究計画調書

| | |
|--|---|
| 新規・継続区分 New or Continued | * <input type="text"/> <input type="button" value="▼"/> (「継続」には、研究計画の大幅な変更を行おうとする継続の課題のみ該当します。) |
| 審査希望分野 Requested Areas for Screening | <input type="radio"/> ア:1つの細目 <input checked="" type="radio"/> イ:2つの細目 (継続の場合、研究課題番号を記入) |
| 細目番号 <input type="button" value="一覧"/> Item Number | * <input type="text"/> * <input type="text"/> |
| 分割番号 Screening Sub-panel Number | <input type="text"/> <input type="text"/> |
| 分野 Area | <input type="text"/> |
| 分科 Discipline | <input type="text"/> |
| 現在の専門 Field of Specialization | * <input type="text"/> |
| エフォート Effort | * <input type="text"/> % |
| 研究課題名 Title of Proposed Project | * <input type="text"/> (40字以内。英文(半角)の場合は200字以内。) |

②研究計画調書の主な変更点について（1）

- 「研究費の応募・受入等の状況・エフォート」欄に、「所属研究機関の特定の目的(ミッション)に沿って行われるプロジェクト研究に参加している場合に、配分される研究費についても記入」する旨を追加しました。（「新学術領域研究」「特別推進研究」「基盤研究(S)」対象）

【基盤研究（S）の例】

研究代表者・研究分担者毎の研究者調書に作成・添付

基盤S－15

| | | | | | |
|--|----------------|-------------|-----------------------------|----------|---|
| 研究者氏名 | | | | | |
| <p>研究費の応募・受入等の状況・エフォート</p> <p>本欄は、合議審査において、「研究資金の不合理な重複や過度の集中にならず、研究課題が十分に遂行し得るかどうか」を判断する際に参照するところですので、本人が受け入れ自ら使用する研究費を正しく記載していただく必要があります。</p> <p>本応募課題の研究代表者又は研究分担者の応募時点における、(1) 応募中の研究費、(2) 受入予定の研究費、(3) その他の活動、について、次の点に留意し記入してください。なお、複数の研究費を記入する場合は、線を引いて区別して記入してください。具体的な記載方法等については、研究計画調書作成・記入要領を確認してください。</p> <p>① 「エフォート」欄には、年間の全仕事を100%とした場合、そのうち当該研究の実施等に必要となる時間の配分率(%)を記入してください。</p> <p>② 「応募中の研究費」欄の先頭には、本応募研究課題を記入してください。</p> <p>③ 科研費の「新学術領域研究(研究領域提案型)」にあつては、「計画研究」、「公募研究」の別を記入してください。</p> <p>④ 所属研究機関内で競争的に配分される研究費についても記入してください。</p> <p>⑤ 所属研究機関の特定の目的(ミッション)に沿って行われるプロジェクト研究に参加している場合に、配分される研究費についても記入してください。なお、個人へ配分される研究費が明確でない場合は、その旨を「研究内容の相違点及び他の研究費に加えて本応募研究課題に応募する理由」欄に記入してください。</p> | | | | | |
| (1) 応募中の研究費 | | | | | |
| 資金制度・研究費名(研究期間・配分機関等名) | 研究課題名(研究代表者氏名) | 役割(代表・分担の別) | 平成25年度の研究経費(期間全体の額) (千円) | エフォート(%) | 研究内容の相違点及び他の研究費に加えて本応募研究課題に応募する理由 (科研費の研究代表者(又は拠点リーダー等のようにプログラム全体の研究費の受入研究者)の場合は、研究期間全体(又はプログラム全体)の受入額を記入すること) |

②研究計画調書の主な変更点について（2）

○「研究計画・方法」欄において、「研究期間の途中で研究環境が大きく変わる場合は、研究実施場所の確保や研究実施方法等について」も記述することとしました。

【基盤研究（C）の例】

基盤C（一般）－3

研究計画・方法

本欄には、研究目的を達成するための具体的な研究計画・方法について、冒頭にその概要を簡潔にまとめて記述した上で、平成25年度の計画と平成26年度以降の計画に分けて、適宜文献を引用しつつ、焦点を絞り、具体的かつ明確に記述してください。ここでは、研究が当初計画どおりに進まない時の対応など、多方面からの検討状況について述べるとともに、研究計画を遂行するための研究体制について、研究分担者とともに行う研究計画である場合は、研究代表者、研究分担者の具体的な役割（図表を用いる等）、学術的観点からの研究組織の必要性・妥当性及び研究目的との関連性についても述べてください。

また、研究体制の全体像を明らかにするため、連携研究者及び研究協力者（海外共同研究者、科研費への応募資格を有しない企業の研究者、大学院生等（氏名、員数を記入することも可））の役割についても必要に応じて記述してください。

なお、研究期間の途中で研究環境が大きく変わる場合は、研究実施場所の確保や研究実施方法等についても記述してください。

研究計画・方法（概要） ※ 研究目的を達成するための研究計画・方法について、簡潔にまとめて記述してください。

②研究計画調書の主な変更点について（3）

- 「研究業績」欄において、「発表年」欄と「研究代表者・研究分担者氏名」欄を統合するとともに「連携研究者」欄の見出しを削除しました。

【基盤研究（C）の例】

基盤C（一般）－6

研究業績

本欄には、研究代表者及び研究分担者が最近5カ年間に発表した論文、著書、産業財産権、招待講演のうち、本研究に関連する重要なものを選定し、現在から順に発表年次を過去にさかのぼり、発表年（暦年）毎に線を引いて区別（線は移動可）し、通し番号を付して記入してください。なお、学術誌へ投稿中の論文を記入する場合は、掲載が決定しているものに限りま。

また、必要に応じて、連携研究者の研究業績についても記入することができます。記入する場合には、二重線を引いて区別（二重線は移動可）し、研究者毎に、現在から順に発表年次を過去にさかのぼり記入してください（発表年毎に線を引く必要はありません。）。

発表年

研究代表者・分担者氏名

発表論文名・著書名 等

（例えば発表論文の場合、論文名、著者名、掲載誌名、査読の有無、巻、最初と最後の頁、発表年（西暦）について記入してください。）

（以上の各項目が記載されていれば、項目の順序を入れ替えても可。著者名が多数にわたる場合は、主な著者を数名記入し以下を省略（省略する場合、その員数と、掲載されている順番を○番目と記入）しても可。なお、研究代表者には二重下線、研究分担者には一重下線、連携研究者には点線の下線を付してください。）

2012
以降

2. 科研費に応募するにあたって留意する事項

(1). 応募者において特に留意する事項

- ①研究計画最終年度前年度の応募について
- ②若手研究(A・B)の受給回数制限について
- ③時限付き分科細目の応募に関する注意点について
- ④研究計画調書、領域計画書のPDF変換について

①研究計画最終年度前年度の応募について（1）

（公募要領P18（学振））

- 最終年度前年度応募が可能となるのは、研究期間が4年以上（育休等に伴う中断により研究期間が延長されたものを除く）で、平成25年度が研究期間の最終年度に該当する研究課題（継続課題）です。
- 最終年度前年度に新たに応募することができる研究種目は、「特別推進研究」、
「基盤研究」です。ただし、「若手研究（S・A・B）」の研究課題を基に、
新たに応募することができる研究種目は、「基盤研究」のみとなります。
- 最終年度前年度応募により採択された場合、その基となった継続課題の平成25年度分科研費は原則として交付しません。交付した場合であっても全額返還することとなりますので、新規応募課題の経費には予め当該継続課題の実施に必要な経費の一部を含めて計上してください。
- 研究代表者は、当該継続課題の研究成果報告書を提出しなければなりません。
（提出期限は平成26年6月30日）

①研究計画最終年度前年度の応募について（2）

○研究最終年度応募の具体例

| 例 | 平成 25 年度の継続課題 | 研究計画最終年度前年度の応募可能研究種目等 |
|---|---|---|
| 1 | <p>【前年度応募可能な特別推進研究（または基盤研究（S））1 件のみ継続課題がある場合】</p> <p>○特別推進研究 （研究期間： 平成 21 ～ 25 年度）</p> | <p>→ 特別推進研究 → 基盤研究（S） → 基盤研究（A・B・C）「一般」 → 基盤研究（A・B）「海外」</p> <p>（※上記の研究種目のうちいずれか1件への前年度応募が可能）</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p style="text-align: center;">△ : 研究進捗状況報告書提出、研究進捗評価実施 ○ : 研究成果報告書提出期限</p> </div> |

①研究計画最終年度前年度の応募について（3）

| 例 | 平成 25 年度の継続課題 | 研究計画最終年度前年度の応募可能研究種目等 |
|---|---|---|
| 2 | <p>【前年度応募可能な基盤研究 1 件のみ継続課題がある場合】</p> <p>○基盤研究（A）「一般」 （研究期間： 平成 22 ～ 25 年度）</p> | <p>→ 特別推進研究（前年度応募ではなく、新規として応募することも可能。）</p> <p>→ 基盤研究（S）</p> <p>→ 基盤研究（A・B・C）「一般」</p> <p>→ 基盤研究（A・B）「海外」（前年度応募ではなく、新規として応募することも可能）</p> <p>（※上記の研究種目のうちいずれか 1 件への前年度応募が可能）</p> <div data-bbox="327 954 2020 1407" style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin-top: 20px;"> <p style="text-align: center;"> 22 23 24 25 ○ 26 継続課題 (基盤A 「一般」) </p> <p style="text-align: center;"> 25 26 27 28 今回前年度応募 </p> <p style="text-align: center;">○ : 研究成果報告書提出期限</p> </div> |

①研究計画最終年度前年度の応募について（４）

| 例 | 平成 25 年度の継続課題 | 研究計画最終年度前年度の応募可能研究種目等 |
|---|---|--|
| 3 | <p>【前年度応募可能な基盤研究で複数の継続課題がある場合】</p> <p>○ 基盤研究（A）「一般」 （研究期間：平成 22 ～ 25 年度）</p> <p>○ 基盤研究（B）「海外」 （研究期間：平成 22 ～ 25 年度）</p> | <p>→ 特別推進研究（前年度応募ではなく、新規として応募することも可能）</p> <p>→ 基盤研究（A・B・C）「一般」 （※下記課題と重複するため、基盤 S 及び「海外」へは応募できない）</p> <p>→ 特別推進研究（前年度応募ではなく、新規として応募することも可能）</p> <p>→ 基盤研究（A・B）「海外」 （※上記課題と重複するため、基盤 S 及び「一般」へは応募できない）</p> <p>※ 1 継続課題当たり、上記の研究種目に 1 件のみ前年度応募が可能。その際、重複応募の制限にかかる研究種目（審査区分）に前年度応募できる課題は 1 件のみ。 [例えば、基盤 A 「一般」 → 特別推進研究に前年度応募した場合は、基盤 B 「海外」 → 特別推進研究への前年度応募は不可]</p> <p>※ 特別推進研究が採択された場合には、他の研究課題は全て廃止する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p>22 23 24 25 ○ 26</p> <p>継続課題 (基盤 A 「一般」)</p> <p>22 23 24 25 ○ 26</p> <p>継続課題 (基盤 B 「海外」)</p> <p>25 26 27 28</p> <p>今回前年度応募 ----- ----- ----- ----- </p> <p>(それぞれの課題から 1 課題ずつ計 2 課題まで前年度応募が可能)</p> <p>○ : 研究成果報告書提出期限</p> </div> |

①研究計画最終年度前年度の応募について（5）

| 例 | 平成 25 年度の継続課題 | 研究計画最終年度前年度の応募可能研究種目等 |
|---|--|---|
| 4 | <p>【基盤研究で2件の継続課題があるが1件は前年度応募ができない継続課題である場合】</p> <p>○基盤研究（B）「一般」 （研究期間：平成 22～25 年度）</p> <p>○基盤研究（B）「海外」 （研究期間：平成 23～26 年度）</p> | <p>特別推進研究（前年度応募ではなく、新規として応募することも可能）</p> <p>基盤研究（A・B・C）「一般」</p> <p>※上記の研究種目のうちいずれか1件への前年度応募が可能</p> <p>※基盤S及び「海外」には、下記課題との重複制限がかかるため前年度応募できない。</p> <p>前年度応募不可（※研究計画最終年度の前年度でないため。）</p> <p>※特別推進研究が採択された場合には、継続課題（基盤B「海外」）は廃止する。</p> <div data-bbox="416 986 2020 1410" style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin-top: 20px;"> <p style="text-align: center;">○ : 研究成果報告書提出期限</p> </div> |

①研究計画最終年度前年度の応募について（6）

| 例 | 平成 25 年度の継続課題 | 研究計画最終年度前年度の応募可能研究種目等 |
|---|--|---|
| 5 | <p>【前年度応募可能な基盤研究と挑戦的萌芽研究の継続課題がある場合】</p> <p>○ 基盤研究（B）「一般」 （研究期間： 平成 22～25 年度）</p> <p>○ 挑戦的萌芽研究 （研究期間： 平成 23～25 年度）</p> | <p>特別推進研究（前年度応募ではなく、 新規として応募することも可能）</p> <p>基盤研究（S）</p> <p>基盤研究（A・B）「一般」</p> <p>基盤研究（A・B）「海外」（前年度応募ではなく、 新規として応募することも可能）</p> <p>※上記の研究種目のうちいずれか 1 件への前年度応募が可能</p> <p>※基盤 C 「一般」には、継続課題（挑戦的萌芽研究）と重複応募の制限がかかるため前年度応募できない。</p> <p>前年度応募不可（※前年度応募の対象となる研究種目でないため。）</p> <p>※特別推進研究が採択された場合には、継続課題（挑戦的萌芽研究）は廃止する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin-top: 20px;"> <p style="text-align: center;">○ : 研究成果報告書提出期限</p> </div> |

①研究計画最終年度前年度の応募について（7）

| 例 | 平成25年度の継続課題 | 研究計画最終年度前年度の応募可能研究種目等 |
|---|--|-----------------------|
| 6 | <p>【前年度応募可能な若手研究1件のみ継続課題がある場合】</p> <p>○若手研究（B） （研究期間： 平成22～25年度）</p> <ul style="list-style-type: none"> → 基盤研究（S） → 基盤研究（A・B・C）「一般」 → 基盤研究（A・B）「海外」 <p>（※上記の研究種目のうちいずれか1件への前年度応募が可能） （※若手研究（A・B）へは前年度応募不可）</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p style="text-align: center;">○：研究成果報告書提出期限</p> </div> | |

②若手研究（A・B）の受給回数の制限について

（公募要領P13（学振））

○平成22年度公募から、若手研究（S・A・B）については、2回までに限りいずれかの研究種目を受給できることとしています。

○ただし、平成25年度公募までの間、経過措置により、既に若手研究（S・A・B）の受給回数が2回以上の場合であっても、年齢制限の範囲内であれば、経過措置の設定期間内において若手研究（A・B）のいずれかの研究種目に応募し、1回受給することができます。

平成25年度公募に応募する際の例

| 年度 | 平成18年度 | 平成19年度 | 平成20年度 | 平成21年度 | 平成22年度 | 平成23年度 | 平成24年度 | 平成25年度 | 平成26年度 | 平成27年度 | 平成28年度 |
|-----|--------------------------------------|--------|------------|--------|------------|--------|------------|-----------------------|-----------------------|--------|--------|
| 例1) | 平成21年度以前に受給がなく、平成22年度以降に1回目を受給している場合 | | | | 若手研究(B)1回目 | | 若手研究(B)2回目 | | 若手研究(A)3回目 | | |
| 例2) | 若手研究(B)1回目 | | 若手研究(B)2回目 | | 若手研究(B)3回目 | | | 若手研究(A)4回目 | | | |
| 例3) | 平成22年度以降に2回目を受給している場合 | | | | 若手研究(B)1回目 | | 若手研究(B)2回目 | | 若手研究(A)3回目 | | |
| 例4) | 若手研究(B)1回目 | | 若手研究(B)2回目 | | | | 若手研究(B)3回目 | | 若手研究(A)4回目 | | |

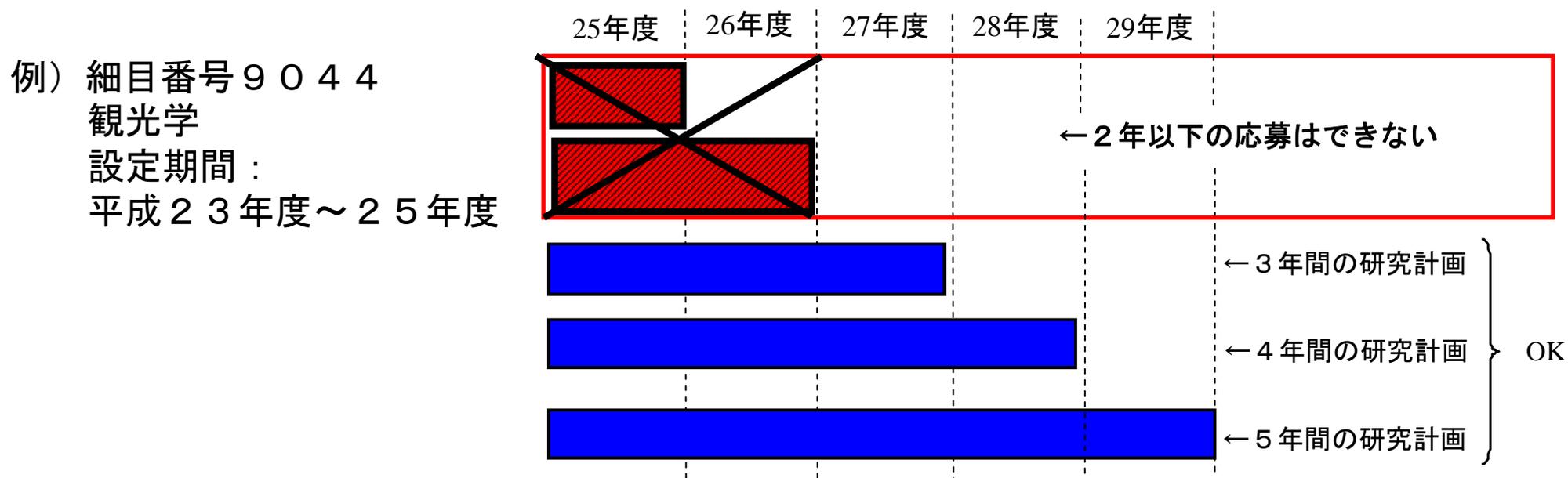
経過措置期間

③時限付き分科細目の応募に関する注意点について

(公募要領P34～38 (学振))

「時限付き分科細目」は基盤研究 (C) にのみ適用される分科細目であり、「設定期間」のみ応募を受け付けています。

- 例えば、「設定期間」が平成23年度から平成25年度の「細目番号9044・観光学」であれば、平成25年度公募までの新規課題の公募を行うということになります。
- つまり、「設定期間」はあくまで公募を行う期間であり、必ずしもこの期間内に研究を終わらせなければならないということではありません。



※なお、設定期間については、見直しが行われる場合があります。

④研究計画調書、領域計画書のPDF変換について

○従来、研究計画調書、領域計画書のPDFへの変換後、ファイルを開く際にパスワードが求められていましたが、不要となりました。

○研究計画調書、領域計画書をPDFに変換する際に付与されるファイル名が変更となりました。

参考：新しいファイル名ルール

| 研究種目 | ファイル名ルール |
|--|---------------------------------------|
| 特別推進研究 | 事業ID-部局番号-研究者番号-整理番号.pdf |
| 基盤研究・若手研究・挑戦的萌芽研究・研究活動スタート支援 | 事業ID-部局番号-研究者番号-細目番号-整理番号.pdf |
| 特定領域研究(継続領域)・新学術領域研究(研究領域提案型)(継続の研究領域) | 事業ID-部局番号-研究者番号-領域番号-研究項目番号-整理番号.pdf |
| 新学術領域研究(研究領域提案型)研究計画調書 | 事業ID-部局番号-研究者番号-仮領域番号-研究項目番号-整理番号.pdf |
| 新学術領域研究(研究領域提案型)領域計画書 | 事業ID-部局番号-研究者番号-仮領域番号.pdf |

2. 科研費に応募するにあたって留意する事項

(2). 研究機関において特に留意する事項

①研究者情報の登録について

②「研究機関における公的研究費の管理・監査のガイドライン(実施基準)」に基づく「体制整備等の自己評価チェックリスト」の提出について

①研究者情報の登録について（1）

（公募要領P40～41（文科）、P60～61（学振））

科研費に応募しようとする研究代表者、研究分担者及び連携研究者は、e-Radに「科研費の応募資格有り」として研究者情報が登録されている者でなければなりません。

【参考】 [e-Rad研究者情報登録画面]

研究者が応募書類を作成できるようにするには、応募資格を確認した後、このチェックボックスにチェックを入れる必要があります。

【科研費情報】

| | |
|---------|--|
| 科研費応募資格 | <input checked="" type="checkbox"/> 資格あり |
| 委嘱先 | <input type="checkbox"/> 委嘱先 |

委嘱先指定欄は、研究者が所属する他の併任機関と調整した結果、自機関を委嘱先とすることが決定した場合に指定してください。
研究者の委嘱先指定欄の状態については「委嘱先確認検索」機能で確認し、自機関を含む併任機関の中で1つだけ指定してください。それ以外の状態となっている研究者については「最初に所属した科研費の指定機関」を委嘱先として取り扱いますので注意願います。

戻る → 次へ進む

ログアウト

インターネット

①研究者情報の登録について（2）

（公募要領P42（文科）、P61～62（学振））

所属研究機関の研究者がe-RadのID・パスワードを保有しているか確認をしてください。

○研究機関は、応募を予定している研究者でID・パスワードを有していない者がいる場合には、e-Radに研究者情報を登録してください。

①研究機関用の電子証明書及びID・パスワードの取得について

研究機関用の電子証明書及びID・パスワードを取得されていない場合には、まず、e-Radポータルサイトより登録様式をダウンロードし、**書面により**登録申請を行ってください。

※ e-Radの電子証明書及びID・パスワードの取得については、e-Radホームページ「システム利用に当たっての事前準備」

（<http://e-rad.go.jp/shozoku/system/index.html>）で確認してください。

※ 登録申請から「研究機関用のID・パスワード」が到着するまで、おおよそ2週間程度かかります。

①研究者情報の登録について（3）

②応募を予定している研究者に対するID・パスワードの付与

各研究者のID・パスワードは、e-Radに研究者情報を登録することにより発行されます。具体的な付与の方法については、e-Radの「所属機関用マニュアル（科研費の研究機関用）（http://www.e-rad.go.jp/shozoku/doc/man_kakenhi_all_ver1.26.pdf）」を確認してください。

※ 一度付与した研究者のID・パスワードは、研究機関を異動しない限り使用可能ですが、既に研究者情報が登録されている者であっても、登録内容（「所属」、「職」等）に修正すべき事項がある場合には、正しい情報に更新する必要があります。

※特に、応募を予定している研究者が他の研究機関からの異動者である場合は、あらためて所属する研究機関が付与する必要があります。

※ e-Radの操作マニュアルは、必ず最新版を取得して利用してください。

②「研究機関における公的研究費の管理・監査のガイドライン（実施基準）」に基づく「体制整備等の自己評価チェックリスト」の提出について（１）

（公募要領P42～43（文科）、P62（学振））

研究者が作成する応募書類以外に、研究機関が作成・提出する書類として、「研究機関における公的研究費の管理・監査のガイドライン（実施基準）」に基づく体制整備等の自己評価チェックリスト」があります。

- チェックリストは、平成24年10月5日（金）までにe-Radにより「文部科学省研究振興局振興企画課競争的資金調整室」に提出してください。
- 当該チェックリストの提出がない場合には、当該研究機関に所属する全ての研究者の応募が認められません。
- e-Radを使用したチェックリストの提出方法や様式等については、別途、文部科学省研究振興局振興企画課競争的資金調整室から、各研究機関（e-Radに登録された事務代表者のメールアドレス）宛に電子メールで通知する予定です。

②「研究機関における公的研究費の管理・監査のガイドライン（実施基準）」に基づく「体制整備等の自己評価チェックリスト」の提出について（2）

- チェックリストを提出した後、e-Radに当該チェックリストの提出状況が反映されるまで概ね1週間かかりますので、余裕をもって提出するようにしてください。
- チェックリストを提出する際は、最新のものであることを必ず確認してください。
- 平成24年4月以降に文部科学省または文部科学省が所管する独立行政法人から配分される競争的資金等の応募の際に、e-Radを経由して既に同チェックリストを提出している場合は、あらためて提出する必要はありません。

【問い合わせ先】

（ガイドラインの様式・提出等について）

文部科学省 研究振興局 振興企画課 競争的資金調整室

e-mail: kenkyuhi@mext.go.jp

【URL】 http://www.mext.go.jp/a_menu/kansa/08122501.htm